



# 株式会社ニコン

## 2004年3月期 決算説明会から

※本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的风险及び不確実性が含まれます。従いまして、様々な要因の変化によって、実際の業績は記述されている内容と大きく乖離する結果となる可能性があることをご承知おきください。

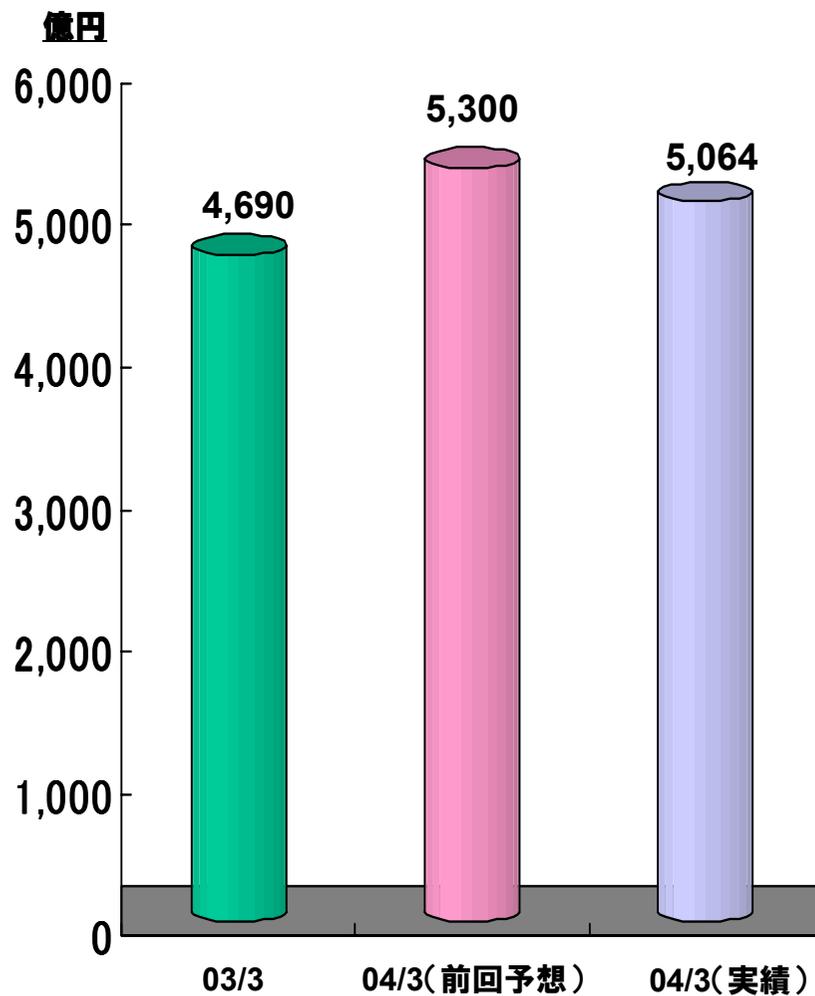


# 2004年3月期の実績

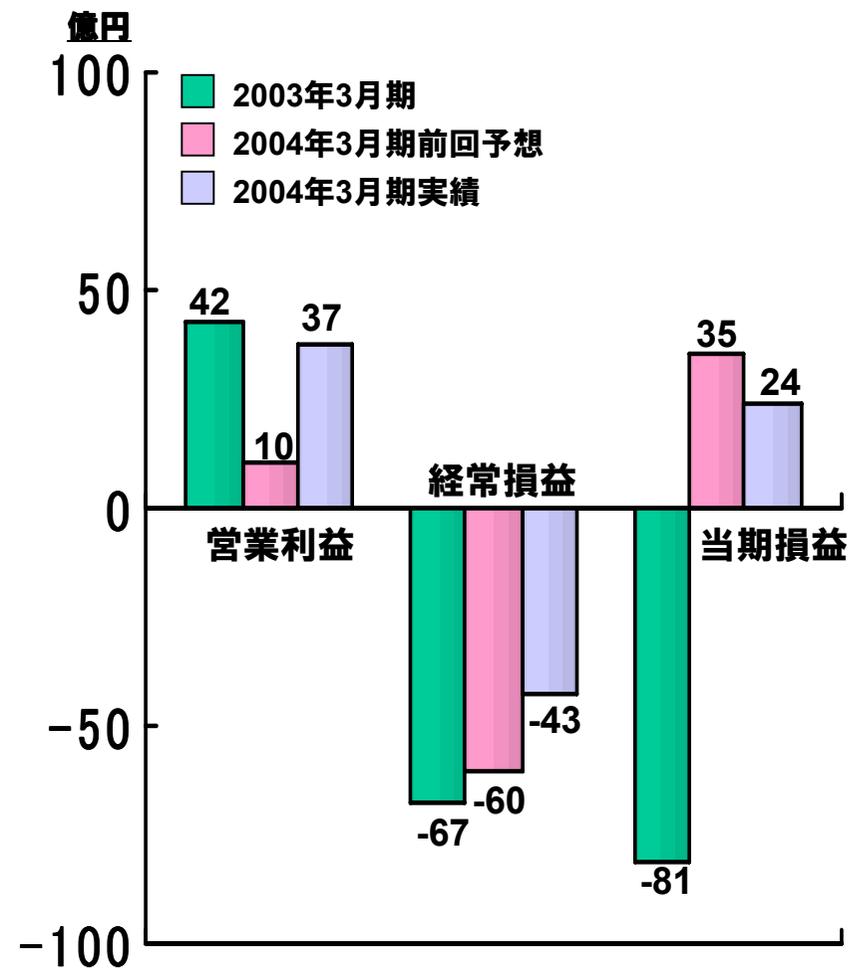


# 2004年3月期 決算概要

## 売上高

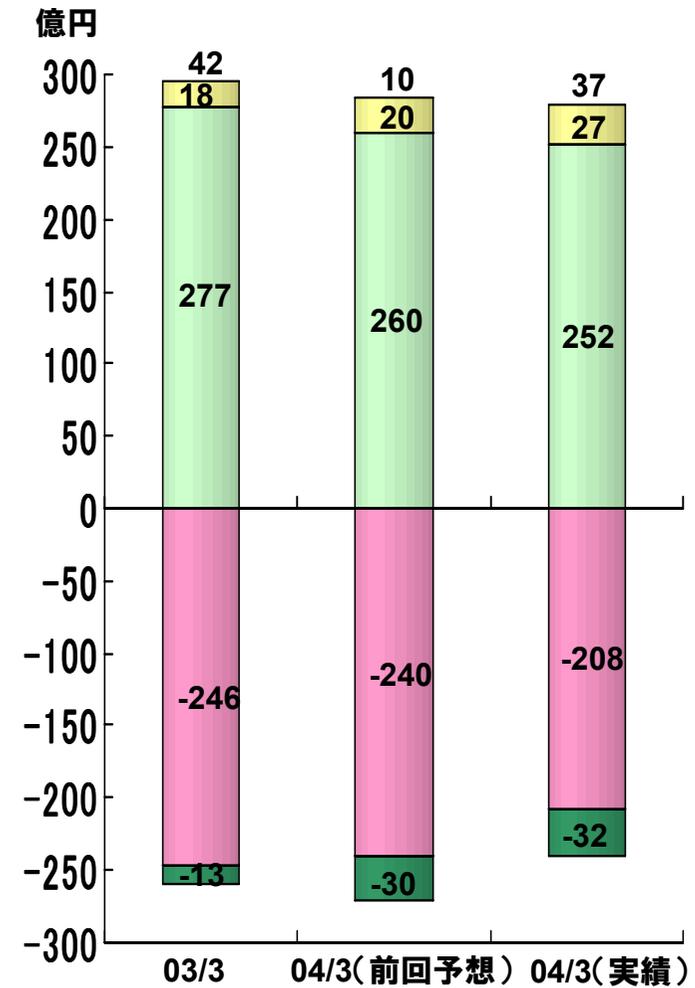
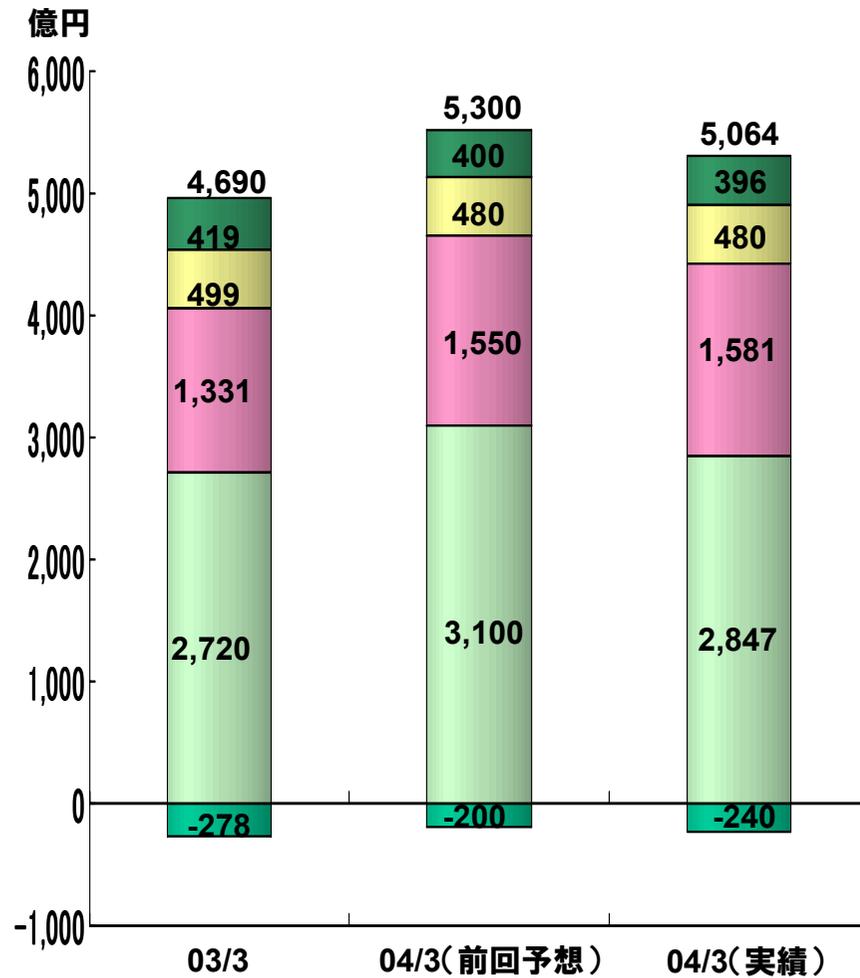


## 損益





# セグメント別売上高/営業利益



映像カンパニー

精機カンパニー

インストルメンツカンパニー

その他



# ステッパー販売台数とカメラ出荷台数

## ステッパー(台)

	03/3	04/3 前回予想	04/3 実績
IC用新品	143	162	159
中古	12	35	46
IC用小計	155	197	205
LCD用	37	49	52
合計	192	246	257

## カメラ(万台)

	03/3	04/3 前回予想	04/3 実績
DSC	336	550	540
交換レンズ	123	117	123
銀塩一眼レフ	93	75	68
銀塩コンパクト	130	69	60



## 2004年3月期のまとめ ～飛躍への布石の一年～

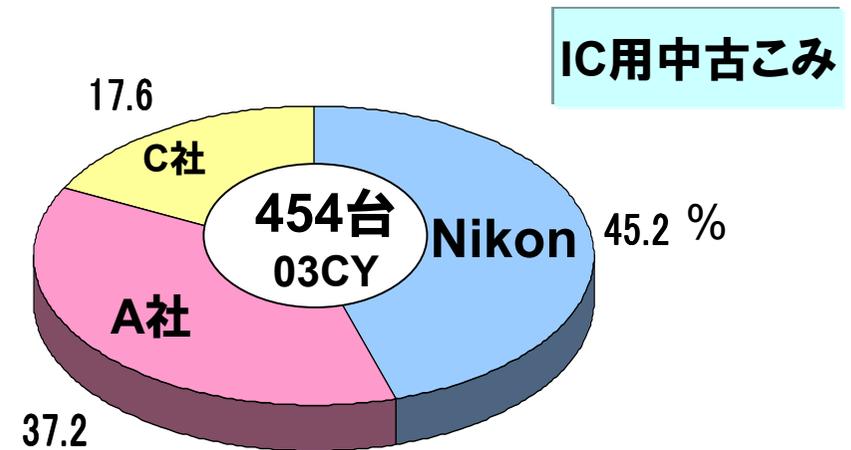
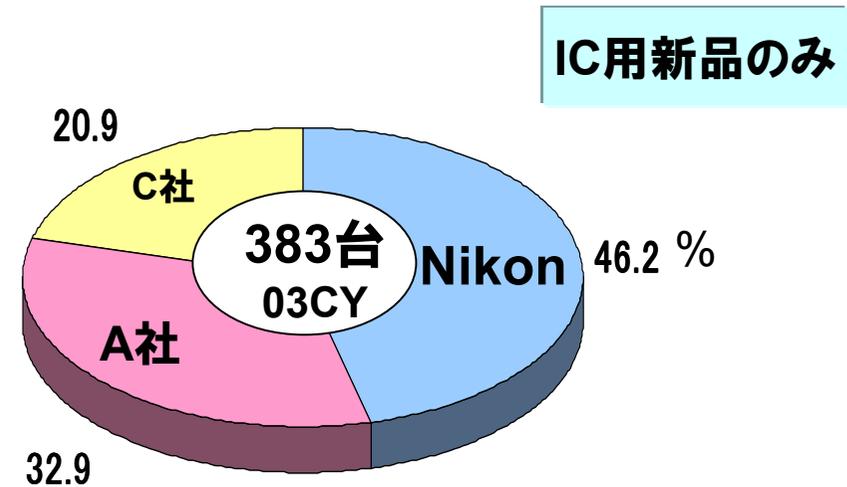
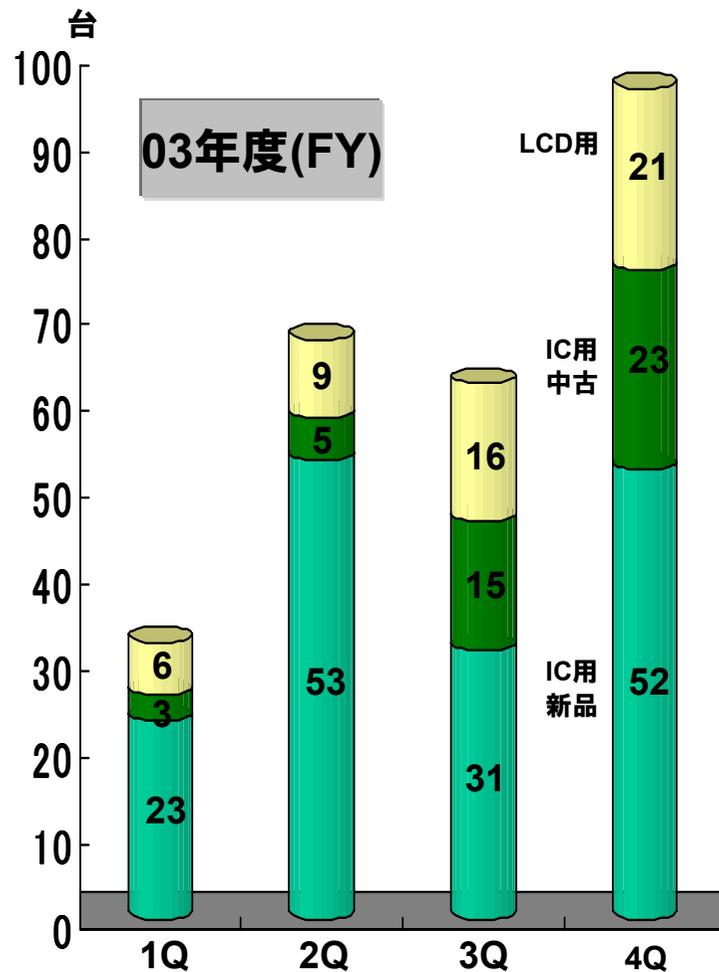
- 売上高はDSCの販売増により過去最高となった。
- 営業利益は精機ではICメーカーの先端投資の先送り、映像ではコンシューマデジタルカメラの価格競争激化と一部供給上の問題から期初予想を大きく下回ったが、精機事業の改善により、前回予想を上回った。
- 映像カンパニーは、DSC及び関連レンズユニットの内製率向上の為の投資を、タイ及び中国にて行い、コストダウンの布石を敷いた。普及価格帯デジタル一眼レフD70を発売。絶好調が続いており、競合機種を上回る勢い。
- 精機カンパニーでは、ArFを延命化させる液浸技術に目処をつけ、競合を上回るスピードで開発を進め、究極の光露光技術のEUVLに繋ぐ道筋を示した。工期短縮を推し進め、i線～ArFまでの量産機種の工期を6ヶ月とした。



# 2004年3月期参考データ

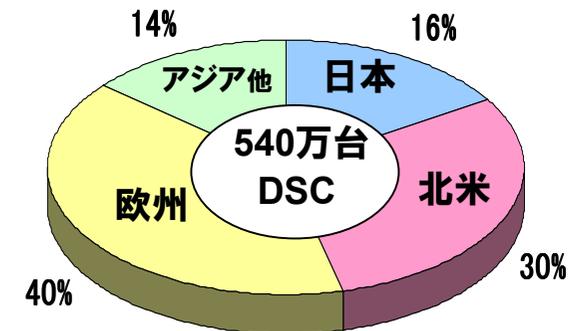
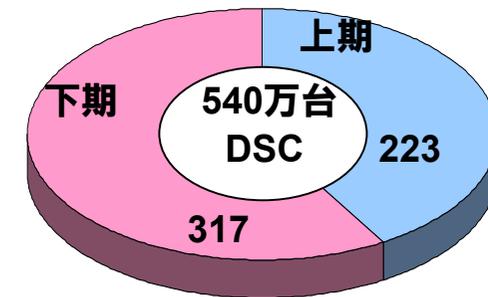
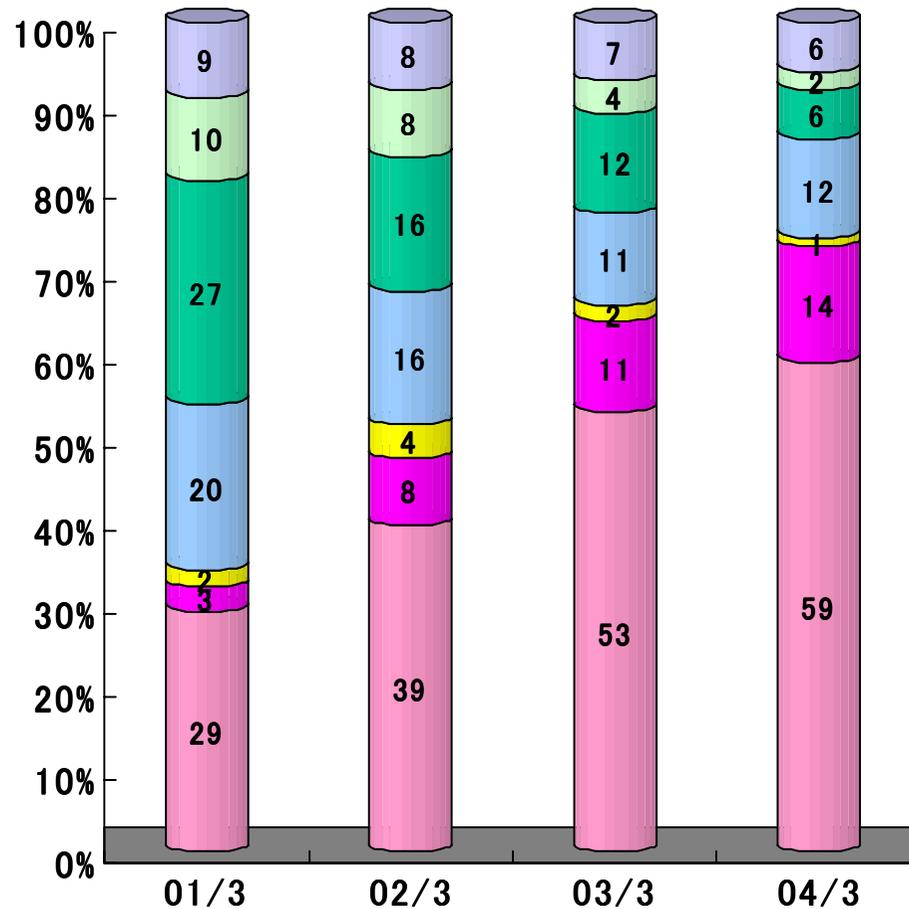


# ステッパー販売台数の推移とシェア





# 映像カンパニー 製品別売上高比率推移と DSC出荷台数&地域別出荷比率



Digital Compact
  Digital SLR
  Scanner
  Lens

Film SLR
  Film Comp
  Others

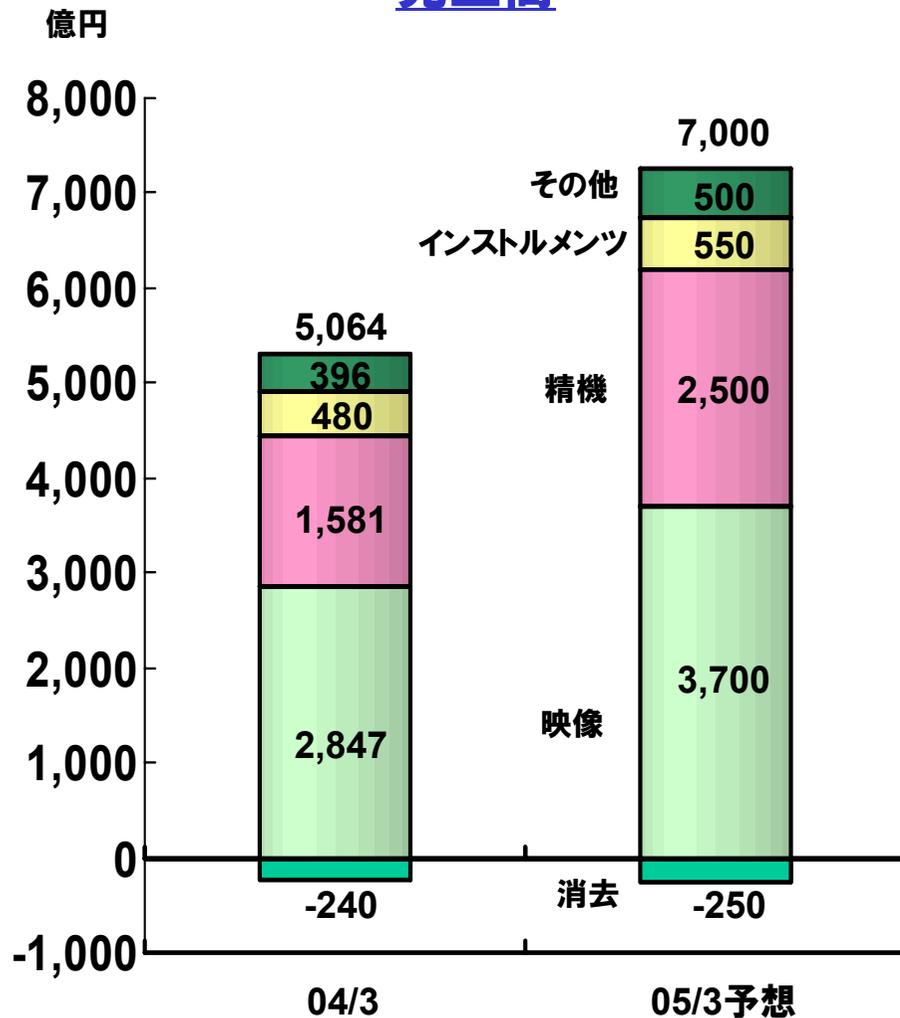


# 2005年3月期の予想

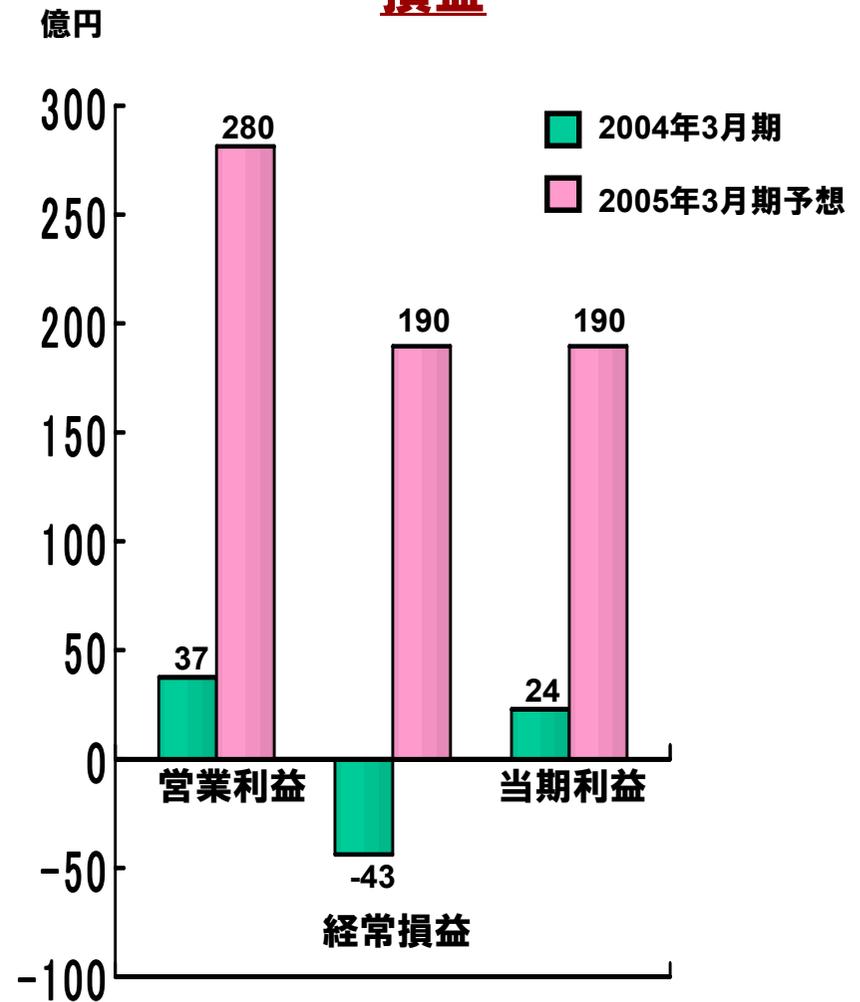


# 2005年3月期 業績予想

## 売上高



## 損益





## 予想の前提(為替と市場規模等)

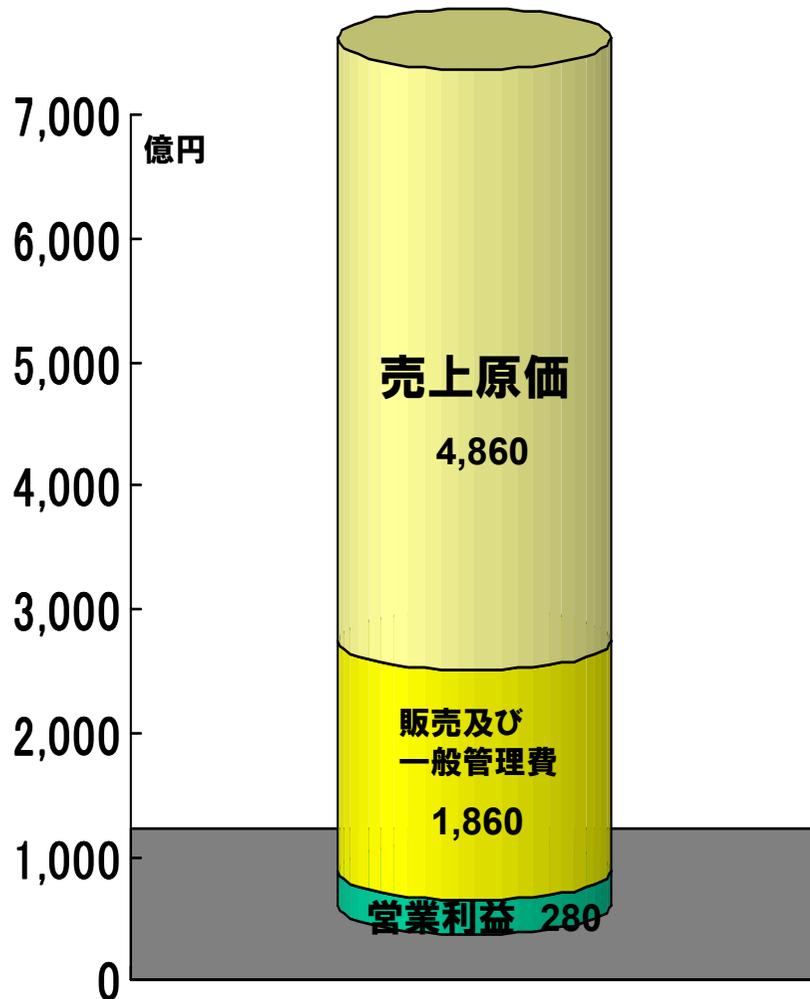
	為替レート		1円の変動による影響額		
	05/3 前提レート		売上高	営業利益	
USDドル	107円		16.4億円	5.5億円	
ユーロ	128円		12.3億円	4.1億円	
	IC用新品	LCD用	DSC コンパクト	DSC 一眼レフ	
市場規模 04年(CY)	500台	160~180台	市場規模 04年度(FY)	6,000万台	240万台

● 銀塩市場の対前年縮小率は約40%。



# 2005年3月期 業績予想

7,000(上期 3,200 / 下期 3,800)



営業利益	上期	40億円
	下期	240億円
営業外収益		60
営業外費用		150
経常利益	上期	10億円
	下期	180億円
特別損益		40
法人税等		40
当期利益	上期	30億円
	下期	160億円



## 2005年3月期予想まとめ ～飛躍への転換の一年～

- 売上高はステッパーとDSCの販売増により過去最高を大幅更新。
- 営業利益では高いレベルの利益を確保する映像に、三期ぶりに黒字化する精機が加わり、280億円を予想。
- 映像カンパニーは、高機能低価格を実現したデジタル一眼レフD70で攻勢をかけるとともに、中国無錫工場でコンパクトDSCの生産を開始。
- 精機カンパニーでは、ドライ及び液浸ArFの技術アドバンテージを確実なものとするとともに、構造改革を推し進める。また商機を逸することのないよう、液晶ステッパーの増産を行う。
- 配当は中間期4円、年間8円を予定。